分かりやすい説明

島根県立中央病院　病院長　小　阪　真　二

最近，糖尿病の名称をダイアベティスに変更しようという動きがあります.「糖尿病の病態への患者さんの理解が進んでおらず，患者さんの6割が周囲に伝えていないことが明らかになり，病名を隠したくなるのは偏見・差別が起こるという予期的なスティグマが働いている．言葉に染み付いた負のイメージを変えるためにも名称変更は極めて有効である」と説明されています．名称変更の有用性はわかりますが，ダイアベティスという名称は適切なのでしょうか.

一部の糖尿病専門医からは「高齢者の患者さんは覚えにくい」との意見も出ているようです．また，その会見会場の記者から「ダイアベティスは絶対やめた方がいい．英語は受け入れられず，“糖尿病村”以外では広がらないと思う．分かりやすい日本語を考えてほしい」と言った意見も寄せられたそうです.

それに対して，国際糖尿病連合西太平洋地区議長の医師は,「糖尿病が正しい日本語なら，仮にスティグマがあっても使い続けるというのも一つの選択だと思うが学術的に正しくない」と反論したそうです．正しい言葉を使うことはいいことですが,『病院で使う言葉がわかる本』,『病院の言葉をわかりやすく』などという本が出るくらい医療機関で日常的に使われている言葉は，一般の患者さんにはわかりにくいのです．医学的に正しい言葉だとしても，患者さんに理解してもらい，医師と患者のコミュニケーションに寄与しなければ，本末転倒です.

患者満足度は医師―患者間のコミュニケーションに依存しており，患者との良好なコミュニケーションと満足度が治療のコンプライアンスを高め，患者に良好な臨床上のアウトカムをもたらすことがわかっています.

有名な医師ウィリアム・オスラーは，医学はサイエンスに基づいたアートであると述べています．そのアートについて日野原重明先生は，アートとは疾患ではなく，患者という人間をケアすることと，患者のための技術を適応する術であり，患者を癒すためには科学による疾患への対応が，アートの柱で支えられていなければならないと記しています.

皆さんは，患者さんにわかりやすい言葉で説明し，良好な関係を築いて効果的な治療を行っていますか？患者さんとの間で良好なコミュニケーションを構築することも，患者さんを癒すための医療者に不可欠なスキルだと考えてください.